
DMAT 活動時におけるトリアージ

(田邊晴山、大友康裕・編 エマージェンシー・ケア 2010新春増刊 p.52-61)

2012年6月22日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

1. 言葉の定義

DMATとはDisaster Medical Assistance Teamの略であり、災害医療援助チームのことである。トリアージとは、大量災害、大災害などで、短時間に多数の傷病者が発生したとき、その救急度、重症度に応じて救急措置、治療の優先順位を決めることである。

2. トリアージの意義

トリアージは災害時の限られた医療資源の中で、最大多数の人に最善の医療行為を尽くすために行うものである。その際に、適切な患者(Right Patient)を適切な場所(Right Place)へ、そして適切な時間内(Right Time)に実施することが重要となる。ここでは治療の優先順位をつけ、軽症患者や救命困難な患者は「即治療の対象」という決断が必要になる。

3. トリアージ区分

実際には4つの区分を設けて優先順位を決定する。

区分0(死亡もしくは救命不能群):黒

区分I(救急治療群):赤

区分II(非救急治療群):黄

区分III(治療不要もしくは軽処置群):緑

4. 誰がトリアージを行うか

多数傷病者が発生している災害現場では、医師一人でトリアージを行うだけでは防ぎえた死を減らすことが不可能で、ときに救急隊員や看護師が実施することもあるだろう。ただし、厳密には、トリアージは医師が行うのが最も望ましい。なぜなら、赤タグの被災者の中から、治療および搬送時の最優先順位の決定は、医学的見解なしには見極められないからである。また、トリアージ「黒」の判断においては、救急隊が行った場合は「搬送優先順位判断」となり、医師が行った場合「死亡診断」となる。

5. トリアージに付随する問題点および課題

現状では完全なトリアージ基準は存在せず、トリアージ実施者の経験に頼る部分が多い。トリアージ実施者の責任の所在についても流動的であったり、救命士がトリアージ「黒」であると判断し黒タグをつける行為に対する法律的問題に対してなど現状で様々な課題が残る。

6. トリアージは繰り返して行わなければならない。

トリアージはさまざまな理由で繰り返し実施し場合によってはカテゴリーを変更しなければならない。トリアージを繰り返す理由は以下の3つである。

- ① 傷病者の流れによりトリアージの目的は異なる
- ② 傷病者の容態は常に変化する
- ③ アンダートリアージ・オーバートリアージは一定の確率で存在する。

7. トリアージタグ：災害現場におけるカルテ

トリアージタグは、災害現場におけるカルテだといえ、可能な限りすべての項目への記載が求められる。トリアージタグの記載の際は、原則は2名一組になって区分の判定者と記録者で行うことが効率的だとされている。次から次へとトリアージを実施する際は時間短縮の工夫を行わなければならない。トリアージ区分が重症化した場合は、最初の区分に×印をつけて、モギリを追加する。逆に軽傷化した場合は、新たなタグをつける。その際、最初のタグは外さず、大きく×印をつける。

8. DMAT 活動時におけるトリアージの種類

① START 法を用いた一次トリアージ

歩行が可能→Ⅲ、緑

② 生理学的、解剖学的評価法を用いた二次トリアージ

このトリアージは傷病者の病態把握や今後必要とされる蘇生治療の選択などにも役に立つ情報が得られる。

9. トリアージの実際

DMAT が実際トリアージを行う状況とは、現場や救護所などの場所にこだわらず、限られた人員・医療資源を有効に使う時であろう。秋葉原の殺傷事件では、東京 DMAT がトリアージに関与した。そのほかの例として以下のことが挙げられる。

I. 近隣地域で大地震が発生し、DMAT が出動することになった。

- ① 現場はまだ救護の手が少なく、怪我人が多数いる。
- ② 消防機関などの怪我人の集約（避難）が進んでいるが、まだ医療活動は行われていない
- ③ 消防機関などによるトリアージは実施済みであったが、さらに医学的見地からのトリアージを求められた

II. 大規模災害が発生し、陸路あるいは空路で現地に向かうことになった。

- ① 現場には救援を求める怪我人が多数残されている。
- ② 現場救護所に応急処置を行う患者が多数いる。
- ③ 医療機関の支援に行くと、「トリアージを終えていない患者」が多数いる。

トリアージは目的や場所によって臨機応変に行うべきもので、つまりいったんトリアージカテゴリーが決定した後、ずっとそのままというわけではない。災害現場、現場救護所、搬送選別、病院入口、後方搬送、広域医療搬送など、さまざまな場面でトリアージを必要とし、さらに容体変化に応じて順位の変更がありうると心得ておきたい。

10. おわりに

全国で統一された方法で DMAT がトリアージを行うという状況は、他国にはないものである。現場の医療班だけでなく、後方支援病院の充実も重要となる。トリアージ方法を学習すると同時に、日々医療従事者としての腕を磨く訓練の実践が大切なのではないだろうか。